

# 地域で見守り活動を行うボランティア対象の研修会および 店舗対象の防犯CSR講習会の効果の検討

—地域と店舗の連携による地域防犯活動の活性化のために—

大久保 智 生<sup>1</sup>・山下 勝 正<sup>2</sup>・田 中 晶<sup>2</sup>・高地 真 由<sup>2</sup>  
吉 見 晃 裕<sup>2</sup>・森 田 浩 充<sup>2</sup>・加 藤 学<sup>3</sup>・白 松 賢<sup>4</sup>  
久保田 真 功<sup>5</sup>・金子 泰 之<sup>6</sup>・岡 田 涼<sup>1</sup>

## <要 旨>

本研究の目的は、地域と店舗の連携による地域防犯活動の活性化のために、地域で見守り活動を行うボランティア対象の研修会および店舗対象の防犯CSR講習会の効果について検討することであった。地域で見守り活動を行うボランティア対象の研修会に参加した130名と店舗対象の防犯CSR講習会に参加した90名を対象としてアンケート調査を行った。研修会参加者と講習会参加者はともに全体の評価と活動の意義やポイントの実感が高いことが明らかとなった。全体の評価と活動の意義やポイントの実感との関連では、研修会参加者、講習会参加者ともに、正の関連が認められたことから、全体の評価と活動の意義やポイントの実感がつながっていることが明らかとなった。

キーワード：地域防犯活動、見守り活動、防犯CSR

## 問題と目的

近年、各地で地域住民を主体とする防犯活動が活発に実施されるようになってきている（芝田・羽生・浅川・島田・小俣，2009）。その一方で、少子高齢化社会の進行や地域コミュニティ意識の希薄化などにより、地域防犯活動が十分に機能していないという指摘もあるが、防犯活動を地域住民だけが担うのではなく、地域の店舗な

ども含めた地域全体で安全安心なまちづくりを推進していく必要がある。

防犯ボランティアを対象とした大久保・垣見・太田・山地・高地・森田・久保田・白松・金子・岡田（2018）の研究では、香川県の地域防犯活動の中では防犯パトロールや子ども保護誘導のような特に子どもの安全を守るための見守り活動が多く行われていることが示されている。ま

---

1 香川大学

2 香川県警察

3 全国防犯CSR推進会議

4 愛媛大学

5 関西学院大学

6 静岡大学

た、地域防犯活動は、高齢者世代で固定化されているという桐生(2015)の指摘と同様に、香川県でもボランティアの高齢化が切実な問題となっており、後継者不足や参加者の減少、マンネリ化などの問題も生じてきていることも示されている(大久保他, 2018)。さらに、これまでの研究(荒井, 2015, 2016; 大久保・細川・荒井, 2017; 高橋, 2010)から、地域防犯活動に対するポジティブな態度が地域防犯活動への参加に影響を及ぼすことが明らかとなっており、大久保他(2018)の研究では、地域防犯活動における動機づけの視点の重要性も指摘されている。こうした結果や指摘を勘案すると、地域防犯活動の活性化のためには、特に見守り活動を行っているボランティアが活動に意義を見出し、継続して参加したくなるような魅力ある活動としていくことが重要になるといえる。

地域防犯活動は、ボランティアが中心となっているが、その活性化には地域との連携、特に地域の店舗との連携が重要である。店舗での防犯ボランティアの見回りによる万引き防止など店内犯罪の抑止から防犯ボランティアの集合場所などで店舗を利用することまで、様々な連携のあり方が考えられるが、こうしたボランティアと店舗の連携においては、店舗の地域の防犯活動への理解が不可欠である(大久保・有吉・千葉・垣見・山地・山口・森田, 2017)。さらに、ボランティアが行う店舗での防犯活動ではボランティアの見せる防犯が重要であり、その際には店舗での活動の意義の理解が不可欠である(白松・久保田, 2016)。したがって、地域防犯活動の活性化のためには、店舗においては、地域の防犯活動への理解、地域との連携が重要になるといえる。その際には、近年注目されている防犯CSR(藤井, 2016)の観点が不可欠である。防犯CSRとは、企業が地域の防犯活動に参加し、地域社会の安心と安全に貢献する(藤井, 2016)というのが基本的なコンセプトである。この防犯CSRの観点に基づくと、これからの社会では、店舗と地域とが連携して、実施可能な防犯活動を推進していくことが求められているといえる。

香川県では、人口1,000人当たりの万引きの認知件数が2009年まで7年連続全国ワースト1位であったことをうけ、香川県警察と香川大学が連携した万引き防止対策事業が立ち上がり、様々な調査を行ってきた(大久保・時岡・岡田, 2013)。そして、地域と連携して、店舗に対して様々な対策プログラムを実践し、実際に万引きの認知件数を減らすなど効果をあげてきた(大久保, 2014)。さらに、特殊詐欺対策においても香川県警察と香川大学が連携して、地域ぐるみの対策を提案してきた(大久保・石岡・堀江・垣見・岩田・山地・木村・山口・三好・森田, 2016; 大久保・石岡・時岡, 2016)。現在は、香川県警察と香川大学が中心となり、万引きや特殊詐欺などの地域における犯罪の抑止を推進するため、「安全安心まちづくり推進店舗」の認定を行っている。これは、店舗の地域貢献を謳っており、地域の防犯ボランティアと店舗をつなぐ事業(大久保他, 2017)であるといえ、前述の防犯CSRの観点も含まれる事業であるといえる。

こうした事業をもとに、今回、地域の防犯ボランティアと店舗の連携をさらに推進し、地域の防犯活動を推進するためにボランティアと店舗を対象とした地域防犯活動支援を行うこととした。ボランティアを対象とした地域防犯活動支援としては、見守りボランティア対象の研修会を開催して、地域における防犯活動の活性化のために活動の意義とポイントを伝え、防犯意識の向上を図ることとした。その際、活動の意義とポイントとして、ホットスポットパトロールや危険箇所の認知に加え、店舗での万引き対策と特殊詐欺対策の重要性、店舗の見回りのポイントや地域の重要性、防犯における声かけや店舗と地域の連携の重要性について、研修会で説明することとした。店舗を対象とした地域防犯活動支援としては、店舗対象の防犯CSR講習会を開催して、店舗における防犯活動の活性化のために活動の意義と活動のポイントを伝え、防犯意識の向上を図ることとした。その際、活動の意義やポイントとして、防犯CSR、店舗の意識改革、店舗のホスピタリティ、防犯

における店舗の重要性と見守りボランティア対象の研修会と同様の店舗の見回りのポイントや地域の重要性、防犯における声かけや店舗と地域の連携の重要性について、講習会で説明することとした。

こうした研修会や講習会の効果について検討するため、アンケート調査を行い、参加者がどのように評価したのかについて尋ねることとした。大久保他(2016)で使用した項目で研修会や講習会全体の評価を尋ね、それぞれの研修会と講習会で説明した前述の活動の意義やポイントに対応したこれらの活動の意義やポイントについて実感できたのかを尋ねることとした。時間の関係から研修会や講習会の前後の2時点で調査を行うのではなく、研修会や講習会の後のみ調査を行うこととした。

以上を踏まえ、本研究では、地域と店舗の連携による地域防犯活動の活性化のために、地域で見守り活動を行うボランティア対象の研修会および店舗対象の防犯CSR講習会の効果について検討することを目的とする。具体的には、まず、研究1では、見守りボランティア対象の研修会全体の評価と活動の意義やポイントの実感について検討し、全体の評価が活動の意義やポイントの実感と関連するのかについて検討する。次に、研究2では、店舗対象の防犯CSR講習会全体の評価と活動の意義やポイントの実感について検討し、全体の評価が活動の意義やポイントの実感と関連するのかについて検討する。

## 研究1

### 目的

研究1では、見守りボランティア対象の研修会全体の評価と活動の意義やポイントの実感について検討し、全体の評価が活動の意義やポイントの実感と関連するのかについて検討することを目的とする。

### 方法

**調査対象と手続き** 研修会に参加した香川県内の見守りボランティアの2団体の130名(男性4名、女性121名、不明5名)に対してアン

ケート調査を行った。調査協力者の年齢は平均が70.286歳、標準偏差が8.738であった。

**調査内容** ①全体の評価：研修会全体の評価については、大久保他(2016)と同様に、「良いと思った」、「勉強になった」、「関心が高まった」、「改善にいかせると思った」の4項目で測定した。回答形式は「全くあてはまらない」(1点)から「非常にあてはまる」(5点)までの5件法である。

②活動の意義やポイントの実感：研修会に参加して得た活動の意義やポイントの実感については、研修会で説明した活動の意義やポイントに対応した形で、「ホットスポットパトロールの重要性がわかった」、「犯罪が起きやすい危険な場所、起きにくい安全な場所がわかった」、「特殊詐欺対策の重要性がわかった」、「万引き対策の重要性がわかった」、「店舗での見回りのポイントがわかった」、「防犯における地域の重要性がわかった」、「防犯対策としての声かけの重要性がわかった」、「店舗と地域の連携の重要性がわかった」の8項目で測定した。回答形式は「全くあてはまらない」(1点)から「非常にあてはまる」(5点)までの5件法である。

### 結果と考察

**研修会における全体の評価と活動の意義やポイントの実感の検討** 研修会に対してどのような評価をし、研修会に参加してどのような活動の意義やポイントの実感を得たのかを検討するため、研修会における全体の評価と研修会に参加して得た活動の意義やポイントの実感の平均値と標準偏差を算出した。その結果をTable 1とTable 2に示す。

研修会における全体の評価では「良いと思った」で平均が4.341( $SD = .598$ )、「勉強になった」で平均が4.398( $SD = .569$ )、「関心が高まった」で平均が4.242( $SD = .622$ )、「改善にいかせると思った」で平均が4.267( $SD = .576$ )であった。以上の結果から、研修会は非常に高い評価が得られていることが示唆された。

研修会に参加して得た活動の意義やポイントの実感では、「ホットスポットパトロールの重要性がわかった」で平均が4.358( $SD = .545$ )、

Table 1 研修会全体の評価

	全く あてはま らない	あてはま らない	どちらとも いえない	あてはまる	非常に あてはまる	平均値 (標準偏差)
良いと思った	0 0	0 0	8 6.5	65 52.8	50 40.7	4.341 (.598)
勉強になった	0 0	0 0	5 4.1	64 52.0	54 43.9	4.398 (.569)
関心が高まった	0 0	1 .8	9 7.5	70 58.3	40 33.3	4.242 (.622)
改善にいかせると思った	0 0	0 0	8 6.7	72 60.0	40 33.3	4.267 (.576)

下段はパーセント

Table 2 研修会に参加して得た活動の意義やポイントの実感

	全く あてはま らない	あてはま らない	どちらとも いえない	あてはまる	非常に あてはまる	平均値 (標準偏差)
ホットスポットパトロールの重要性がわかった	0 0	0 0	4 3.3	71 57.7	48 39.0	4.358 (.545)
犯罪が起きやすい危険な場所、起きにくい安全 な場所がわかった	0 0	0 .0	0 .0	67 54.0	57 43.8	4.460 (.500)
特殊詐欺対策の重要性がわかった	0 0	0 .0	6 4.9	71 58.2	45 36.9	4.320 (.564)
万引き対策の重要性がわかった	0 0	0 .0	2 1.6	68 54.8	54 43.5	4.419 (.527)
店舗での見回りのポイントがわかった	0 0	0 0	2 1.6	72 58.5	49 39.8	4.382 (.520)
防犯における地域の重要性がわかった	0 0	0 0	4 3.2	71 56.8	50 40.0	4.368 (.547)
防犯対策としての声かけの重要性がわかった	0 0	0 0	7 5.6	59 47.6	58 46.8	4.411 (.598)
店舗と地域の連携の重要性がわかった	0 0	0 .0	3 2.5	71 58.2	48 39.3	4.369 (.533)

下段はパーセント

「犯罪が起きやすい危険な場所、起きにくい安全な場所がわかった」で平均が4.460 ( $SD = .500$ ), 「特殊詐欺対策の重要性がわかった」で平均が4.320 ( $SD = .564$ ), 「万引き対策の重要性がわかった」で平均が4.419 ( $SD = .527$ ), 「店舗での見回りのポイントがわかった」で平均が4.382 ( $SD = .520$ ), 「防犯における地域の重要性がわかった」で平均が4.368 ( $SD = .547$ ), 「防犯対策としての声かけの重要性がわかった」で平均が4.411 ( $SD = .598$ ), 「店舗と地域の連携の重要性がわかった」で平均が4.369 ( $SD = .533$ ) で

あった。以上の結果から、研修会への参加は活動の意義やポイントが実感できるものであることが示唆された。

**研修会における全体の評価と活動の意義やポイントの実感との関連の検討** 研修会における全体の評価が活動の意義やポイントの実感とつながっているのかを検討するため、研修会参加者の全体の評価と活動の意義やポイントの実感のピアソンの相関係数を算出した。その結果をTable 3に示す。

相関分析の結果, 「良いと思った」は「ホッ

Table 3 研修会全体の評価と活動の意義やポイントの実感の関連

	良いと思った	勉強になった	関心が高まった	改善にいかせると 思った
ホットスポットパトロールの重要性がわかった	.577 ***	.459 ***	.515 ***	.557 ***
犯罪が起きやすい危険な場所、起きにくい安全な場所がわかった	.502 ***	.584 ***	.525 ***	.651 ***
特殊詐欺対策の重要性がわかった	.472 ***	.491 ***	.530 ***	.554 ***
万引き対策の重要性がわかった	.494 ***	.549 ***	.523 ***	.618 ***
店舗での見回りのポイントがわかった	.545 ***	.455 ***	.443 ***	.512 ***
防犯における地域の重要性がわかった	.506 ***	.569 ***	.550 ***	.611 ***
防犯対策としての声かけの重要性がわかった	.466 ***	.518 ***	.457 ***	.531 ***
店舗と地域の連携の重要性がわかった	.461 ***	.471 ***	.490 ***	.587 ***

\*\*\* $p < .001$

トスポットパトロールの重要性がわかった」( $r = .577, p < .001$ )、「犯罪が起きやすい危険な場所、起きにくい安全な場所がわかった」( $r = .502, p < .001$ )、「特殊詐欺対策の重要性がわかった」( $r = .472, p < .001$ )、「万引き対策の重要性がわかった」( $r = .494, p < .001$ )、「店舗での見回りのポイントがわかった」( $r = .545, p < .001$ )、「防犯における地域の重要性がわかった」( $r = .506, p < .001$ )、「防犯対策としての声かけの重要性がわかった」( $r = .466, p < .001$ )、「店舗と地域の連携の重要性がわかった」( $r = .461, p < .001$ )と有意な正の関連が認められた。「勉強になった」は「ホットスポットパトロールの重要性がわかった」( $r = .459, p < .001$ )、「犯罪が起きやすい危険な場所、起きにくい安全な場所がわかった」( $r = .584, p < .001$ )、「特殊詐欺対策の重要性がわかった」( $r = .491, p < .001$ )、「万引き対策の重要性がわかった」( $r = .549, p < .001$ )、「店舗での見回りのポイントがわかった」( $r = .455, p < .001$ )、「防犯における地域の重要性がわかった」( $r = .569, p < .001$ )、「防犯対策としての声かけの重要性がわかった」( $r = .518, p < .001$ )、「店舗と地域の連携の重要性がわかった」( $r = .471, p < .001$ )と

有意な正の関連が認められた。「関心が高まった」は「ホットスポットパトロールの重要性がわかった」( $r = .515, p < .001$ )、「犯罪が起きやすい危険な場所、起きにくい安全な場所がわかった」( $r = .525, p < .001$ )、「特殊詐欺対策の重要性がわかった」( $r = .530, p < .001$ )、「万引き対策の重要性がわかった」( $r = .523, p < .001$ )、「店舗での見回りのポイントがわかった」( $r = .443, p < .001$ )、「防犯における地域の重要性がわかった」( $r = .550, p < .001$ )、「防犯対策としての声かけの重要性がわかった」( $r = .457, p < .001$ )、「店舗と地域の連携の重要性がわかった」( $r = .490, p < .001$ )と有意な正の関連が認められた。「改善にいかせると思った」は「ホットスポットパトロールの重要性がわかった」( $r = .557, p < .001$ )、「犯罪が起きやすい危険な場所、起きにくい安全な場所がわかった」( $r = .651, p < .001$ )、「特殊詐欺対策の重要性がわかった」( $r = .554, p < .001$ )、「万引き対策の重要性がわかった」( $r = .618, p < .001$ )、「店舗での見回りのポイントがわかった」( $r = .512, p < .001$ )、「防犯における地域の重要性がわかった」( $r = .611, p < .001$ )、「防犯対策としての声かけの重要性がわかった」( $r = .531, p < .001$ )、「店舗と地域の連携の重



要性がわかった」( $r = .587, p < .001$ )と有意な正の関連が認められた。

以上の結果から、研修会全体の評価と活動の意義やポイントの実感はつながっていることが示唆された。活動の意義やポイントを実感することが全体の評価と関連することから、研修会で説明した活動の意義やポイントは見守りボランティアの防犯活動への意識向上につながるということが示唆された。

## 研究 2

### 目的

研究 2 では、店舗対象の講習会全体の評価と活動の意義やポイントの実感について検討し、全体の評価が活動の意義やポイントの実感と関連するののかについて検討することを目的とする。

### 方法

**調査対象と手続き** 講習会に参加した香川県内の店舗関係者90名(男性76名, 女性13名, 不明1名)に対してアンケート調査を行った。調査協力者の年齢は平均が49.625歳, 標準偏差が10.471であった。

**調査内容** ①全体の評価: 講習会全体の評価については、大久保他(2016)や研究1と同様に、「良いと思った」、「勉強になった」、「関心が高まった」、「改善にいかせるといった」の4項目で測定した。回答形式は「全くあてはまらない」(1点)から「非常にあてはまる」(5点)までの5件法である。

②活動の意義やポイントの実感: 講習会に参加して得た活動の意義やポイントの実感については、講習会で説明した活動の意義やポイントに対応した形で、「防犯CSRの重要性がわかった」、「店舗の意識改革の重要性がわかった」、「店舗のホスピタリティの重要性がわかった」、「防犯における店舗の重要性がわかった」、「店舗での見回りのポイントがわかった」、「防犯における地域の重要性がわかった」、「防犯対策としての声かけの重要性がわかった」、「店舗と地域の連携の重要性がわかった」の8項目で測定した。回答形式は「全くあてはまらない」(1点)

から「非常にあてはまる」(5点)までの5件法である。

### 結果と考察

**講習会における全体の評価と活動の意義やポイントの実感の検討** 講習会に対してどのような評価をし、講習会に参加してどのような活動の意義やポイントの実感を得たのかを検討するため、研修会における全体の評価と研修会に参加して得た活動の意義やポイントの実感の平均値と標準偏差を算出した。その結果をTable 4とTable 5に示す。

講習会における全体の評価では「良いと思った」で平均が4.011( $SD = .731$ ), 「勉強になった」で平均が4.079( $SD = .678$ ), 「関心が高まった」で平均が3.966( $SD = .553$ ), 「改善にいかせるといった」で平均が3.798( $SD = .660$ )であった。以上の結果から、講習会は高い評価が得られていることが示唆された。

講習会に参加して得た活動の意義やポイントの実感では、「防犯CSRの重要性がわかった」で平均が4.056( $SD = .803$ ), 「店舗の意識改革の重要性がわかった」で平均が4.090( $SD = .668$ ), 「店舗のホスピタリティの重要性がわかった」で平均が3.921( $SD = .757$ ), 「防犯における店舗の重要性がわかった」で平均が4.169( $SD = .661$ ), 「店舗での見回りのポイントがわかった」で平均が4.045( $SD = .811$ ), 「防犯における地域の重要性がわかった」で平均が4.255( $SD = .703$ ), 「防犯対策としての声かけの重要性がわかった」で平均が4.326( $SD = .636$ ), 「店舗と地域の連携の重要性がわかった」で平均が4.258( $SD = .762$ )であった。以上の結果から、講習会への参加は活動の意義やポイントが実感できるものであることが示唆された。

**講習会における全体の評価と活動の意義やポイントの実感との関連の検討** 研修会における全体の評価が活動の意義やポイントの実感とつながっているのかを検討するため、研修会参加者の全体の評価と活動の意義やポイントの実感のピアソンの相関係数を算出した。その結果をTable 6に示す。

相関分析の結果、「良いと思った」は「防犯

Table 4 講習会全体の評価

	全く あてはま らない	あてはま らない	どちらとも いえない	あてはまる	非常に あてはまる	平均値 (標準偏差)
良いと思った	1 1.1	2 2.2	11 12	56 62.9	19 21.3	4.011 (.731)
勉強になった	1 1.1	1 1	8 9	59 66.3	20 22.5	4.079 (.678)
関心が高まった	0 0	0 0	15 16.9	62 69.7	12 13.5	3.966 (.553)
改善にいかせると思った	0 0	1 1	27 30.3	50 56.2	11 12.4	3.798 (.660)

下段はパーセント

Table 5 講習会に参加して得た活動の意義やポイントの実感

	全く あてはま らない	あてはま らない	どちらとも いえない	あてはまる	非常に あてはまる	平均値 (標準偏差)
防犯CSRの重要性がわかった	1 1.1	2 2.2	14 15.7	46 51.7	26 29.2	4.056 (.803)
店舗の意識改革の重要性がわかった	0 0	1 1.1	13 14.6	52 58.4	23 25.8	4.090 (.668)
店舗のホスピタリティの重要性がわかった	1 1.1	3 3.4	14 15.7	55 61.8	16 18.0	3.921 (.757)
防犯における店舗の重要性がわかった	0 0	1 1.1	10 11.2	51 57.3	27 30.3	4.169 (.661)
店舗での見回りのポイントがわかった	1 1.1	1 1.1	18 20.2	42 47.2	27 30.3	4.045 (.811)
防犯における地域の重要性がわかった	0 0	1 1.1	11 12.4	44 49.4	33 37.1	4.225 (.703)
防犯対策としての声かけの重要性がわかった	0 0	0 0	8 9.0	44 49.4	37 41.6	4.326 (.636)
店舗と地域の連携の重要性がわかった	1 1.1	0 0	11 12.4	40 44.9	37 41.6	4.258 (.762)

下段はパーセント

Table 6 講習会全体の評価と活動の意義やポイントの実感の関連

	良いと思った	勉強になった	関心が高まった	改善にいかせると 思った
防犯CSRの重要性がわかった	.716 ***	.660 ***	.568 ***	.408 ***
店舗の意識改革の重要性がわかった	.533 ***	.511 ***	.531 ***	.480 **
店舗のホスピタリティの重要性がわかった	.536 ***	.366 ***	.564 ***	.468 ***
防犯における店舗の重要性がわかった	.537 ***	.477 ***	.513 ***	.469 ***
店舗での見回りのポイントがわかった	.460 ***	.283 **	.460 ***	.463 ***
防犯における地域の重要性がわかった	.592 ***	.463 ***	.546 ***	.368 ***
防犯対策としての声かけの重要性がわかった	.408 ***	.362 ***	.549 ***	.430 ***
店舗と地域の連携の重要性がわかった	.607 ***	.620 ***	.507 ***	.399 ***

\*\* $p < .01$  \*\*\* $p < .001$

CSRの重要性がわかった」( $r = .716, p < .001$ ), 「店舗の意識改革の重要性がわかった」( $r = .533, p < .001$ ), 「店舗のホスピタリティの重要性がわかった」( $r = .536, p < .001$ ), 「防犯における店舗の重要性がわかった」( $r = .537, p < .001$ ), 「店舗での見回りのポイントがわかった」( $r = .460, p < .001$ ), 「防犯における地域の重要性がわかった」( $r = .592, p < .001$ ), 「防犯対策としての声かけの重要性がわかった」( $r = .408, p < .001$ ), 「店舗と地域の連携の重要性がわかった」( $r = .607, p < .001$ )と有意な正の関連が認められた。「勉強になった」は「防犯CSRの重要性がわかった」( $r = .660, p < .001$ ), 「店舗の意識改革の重要性がわかった」( $r = .511, p < .001$ ), 「店舗のホスピタリティの重要性がわかった」( $r = .366, p < .001$ ), 「防犯における店舗の重要性がわかった」( $r = .477, p < .001$ ), 「店舗での見回りのポイントがわかった」( $r = .283, p < .01$ ), 「防犯における地域の重要性がわかった」( $r = .463, p < .001$ ), 「防犯対策としての声かけの重要性がわかった」( $r = .362, p < .001$ ), 「店舗と地域の連携の重要性がわかった」( $r = .620, p < .001$ )と有意な正の関連が認められた。「関心が高まった」は「防犯CSRの重要性がわかった」( $r = .568, p < .001$ ), 「店舗の意識改革の重要性がわかった」( $r = .531, p < .001$ ), 「店舗のホスピタリティの重要性がわかった」( $r = .564, p < .001$ ), 「防犯における店舗の重要性がわかった」( $r = .513, p < .001$ ), 「店舗での見回りのポイントがわかった」( $r = .460, p < .001$ ), 「防犯における地域の重要性がわかった」( $r = .546, p < .001$ ), 「防犯対策としての声かけの重要性がわかった」( $r = .549, p < .001$ ), 「店舗と地域の連携の重要性がわかった」( $r = .507, p < .001$ )と有意な正の関連が認められた。「改善にいかせようと思った」は「防犯CSRの重要性がわかった」( $r = .408, p < .001$ ), 「店舗の意識改革の重要性がわかった」( $r = .480, p < .001$ ), 「店舗のホスピタリティの重要性がわかった」( $r = .468, p < .001$ ), 「防犯における店舗の重要性がわかった」( $r = .469, p$

$< .001$ ), 「店舗での見回りのポイントがわかった」( $r = .463, p < .001$ ), 「防犯における地域の重要性がわかった」( $r = .368, p < .001$ ), 「防犯対策としての声かけの重要性がわかった」( $r = .430, p < .001$ ), 「店舗と地域の連携の重要性がわかった」( $r = .399, p < .001$ )と有意な正の関連が認められた。

以上の結果から、講習会全体の評価と活動の意義やポイントの実感はずなながつながっていることが示唆された。防犯CSRの意義やポイントを実感することが全体の評価と関連することから、講習会で説明した防犯CSRの意義や活動のポイントは店舗の防犯活動への意識向上につながることが示唆された。

### 総合考察

本研究の目的は、地域と店舗の連携による地域防犯活動の活性化のために、地域で見守り活動を行うボランティア対象の研修会および店舗対象の防犯CSR講習会の効果について検討することであった。研修会参加者と講習会参加者はともに全体の評価と活動の意義やポイントの実感が高いことが明らかとなった。全体の評価と活動の意義やポイントの実感との関連では、研修会参加者、講習会参加者ともに、正の関連が認められたことから、全体の評価と活動の意義やポイントの実感がつながっていることが明らかとなった。

地域で見守り活動を行うボランティア対象の研修会の参加者は地域の防犯活動の担い手であり、店舗対象の防犯CSR講習会の参加者は店舗での防犯活動の担い手である。こうした異なる参加者であっても、全体の評価が高く、活動の意義やポイントの実感が得られるということは、こうした研修会や講習会は地域と店舗の連携による地域防犯活動の活性化の起爆剤になる可能性が示唆された。また、研修会と講習会における全体の評価と活動の意義やポイントの実感との関連の仕方からも、意図した効果があったと考えられた。したがって、今回のボランティアへの研修会、店舗への講習会は効果的なものであったと推測された。特に、今回、防



犯におけるボランティアを含む地域の重要性、防犯CSRのような防犯における店舗の重要性、そして何より店舗と地域の連携の重要性を認識してもらうことができたため、地域と店舗の連携による地域防犯活動の活性化につながる試みであったといえる。

地域で見守り活動を行うボランティア対象の研修会、店舗対象の防犯CSR講習会ともに一定の評価が得られたといえる。地域で見守り活動を行うボランティア対象の研修会の自由記述でも、「自分でもできることがあるのだと気づいた。聞いた事を参考に地域の防犯に協力していきたい」などの肯定的な意見が多かった。店舗対象の防犯CSR講習会の自由記述でも、「犯罪を起こさせない取組、また地域の安全を自ら行うことは非常に大切なことであり、効果があることがよくわかった。我々も継続できる取組を考えたい」などの肯定的な意見が多かった。その一方で、防犯CSR講習会の自由記述には「防犯は警察と県がやらないと変わらない」という意見もあった。地域と店舗の連携による防犯活動の活性化には、こうした店舗関係者の意識を変え、地域の店舗や地域の住民が自らを地域の防犯の担い手としてとらえていく必要があるが、現実には道のりはまだまだ遠いといえるため、まずは社会貢献の意識の強い店舗やボランティアが率先して活動を行っていく必要があるといえる。そして、こうした活動の広がりによって、防犯について警察や県に任せるのではなく、自らも防犯の担い手としてとらえる機運を高めていくことが可能になるといえる。

今後の課題としては、3点挙げられる。1点目は調査対象である。今回、研修会に参加した見守りボランティアと講習会に参加した店舗関係者を対象としたが、これらの対象者は地域防犯活動への関心の高い者が多かったと考えられる。地域には、防犯活動にあまり関心のない住民や店舗関係者も多数存在することから、今後、関心のない住民や店舗関係者においても同様の効果が認められるのかを検討する必要があるといえる。2点目は、調査の実施の仕方である。本来ならば、研修会や講習会の前後に調査

を実施し、その変化について検討すべきであるが、今回は時間の関係から研修会や講習会の後のみの調査となってしまった。さらに、今回は簡単な評価や活動のポイントの実感だけで、防犯意識などについては尋ねることができなかった。したがって、事前と事後の調査を行い、実際に研修会や講習会の効果があるのか、さらに防犯意識が向上するのかについて検討する必要があるといえる。3点目は今後の展開の仕方である。今後は研修会や講習会だけでなく、ボランティア活動用マニュアルや店舗向けのマニュアルなどを制作して、地域と店舗の連携による防犯活動を支援していくことが求められる。その際には、割れ窓理論 (Kelling & Coles, 1996) や日常活動理論 (Felson, 2002) などに基づいて、犯罪を未然に防止していく必要があるといえる。

#### 付記

本研究は日工組社会安全研究財団2017年度の一般研究助成を受けて実施したものである。

#### 引用文献

- 荒井崇史 (2015). 防犯行動促進要因の検討：計画行動理論の観点からの検討 犯罪心理学研究第53巻特別号, 146-147.
- 荒井崇史 (2016). 地域防犯活動への参加意図を規定する要因の検討 犯罪心理学研究第54巻特別号, 140-141.
- Felson, M. (2002). *Crime and everyday life* (3rd ed.). Prince Forge, Inc. 森山正 (監訳) (2005). 日常生活の犯罪学 日本評論社.
- 藤井良広 (2015). 機能する企業の社会的責任論への一考察：「防犯CSR」というコンセプトと企業行動 地球環境学, 11, 195-208.
- Kelling, G. L., & Coles, C. M. (1996). *Fixing broken windows: Restoring order and reducing crime in our communities*. The Free Press. 小宮 信夫 (監訳) (2004). 割れ窓理論による犯罪防止：コミュニティの安全をどう確保するか 文化書房博文社.
- 桐生正幸 (2015). 地域防犯活動における高齢者ボランティアの意識調査 東洋大学21世紀ヒューマン・

インタラクシオン・リサーチセンター研究年報,  
12, 13-20.

大久保智生(2014) 香川県における万引き防止の取  
組：万引き認知件数全国ワースト1位からの脱却  
刑政, 125(10), 12-23.

大久保智生・有吉徳洋・千葉敦雄・垣見真博・山地秀一・  
山口真由・森田浩充(2017). 店舗における地域と  
連携した防犯対策の評価：安全・安心まちづくり  
推進店舗の認定を通して 香川大学教育学部研究  
報告, 148, 1-8.

大久保智生・細川愛・荒井崇史(2017). 高齢者にお  
ける地域防犯活動への参加および自身の防犯行動  
とその規定要因：要因連関モデルからの検討 香  
川大学生涯学習教育研究センター研究報告, 22,  
55-67.

大久保智生・石岡良子・堀江良英・垣見真博・岩田  
健嗣・山地秀一・木村光宏・山口真由・三好弘美・  
森田浩充(2016). 特殊詐欺撲滅ネットワーク会議  
および高齢者の防犯教育推進のための研修会の効  
果の検討：地域ぐるみの特殊詐欺対策推進のため  
に 香川大学教育学部研究報告, 146, 1-8.

大久保智生・石岡良子・時岡晴美(2016). 地域と  
連携した高齢者向け防犯教育プログラムの開発：  
高齢者が被害者及び加害者にならないための教育  
ジェロントロジー研究報告, 12, 36-47.

大久保智生・垣見真博・太田一成・山地秀一・高地  
真由・森田浩充・久保田真功・白松賢・金子泰之・  
岡田涼(2018). 香川県における防犯ボランティア  
の活動内容と課題の検討：ボランティアへの参加  
動機と援助成果, 地域との交流との関連から 香  
川大学生涯学習教育研究センター研究報告, 23,  
65-74.

大久保智生・時岡晴美・岡田涼(編)(2013). 万引き  
防止対策に関する調査と社会的実践：社会で取り  
組む万引き防止 ナカニシヤ出版.

芝田征司・羽生和紀・浅川達人・島田貴仁・小俣謙  
二(2009). 地域防犯に対する住民意識と防犯活動  
の参加態度との関係についての予備的分析 人間  
環境学会誌, 12(2), 50.

高橋尚也(2010). 地域防犯活動に対する市民参加を  
規定する要因：東京都江戸川区における二つの調  
査結果をもとに 社会心理学研究, 26, 97-108.